

平成20年度名古屋大学地震防災訓練を実施



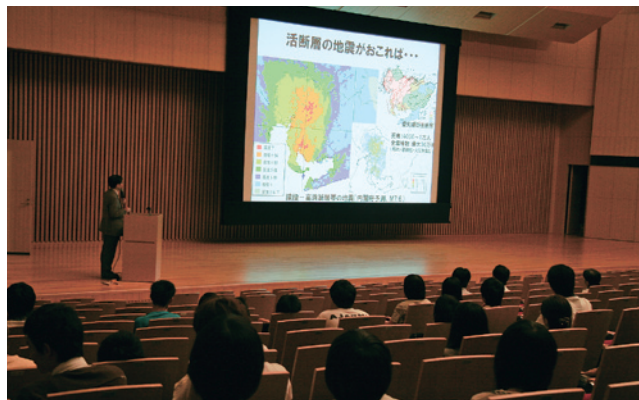
災害対策統括本部の移動訓練

地震防災訓練が、10月9日(木)、東山地区、鶴舞地区、大幸地区、豊川地区、留学生会館及び国際嚶鳴館において、実施されました。

この訓練は、本学構成員の防災意識の高揚を図るとともに、マニュアルなどに定められた災害発生時の基本的な対応手順を確認し、対応能力を向上させることを目的として、平成15年度から実施しているものです。今年度の訓練では、勤務（講義）時間中に、名古屋市内で震度6弱の揺れとなる地震が発生したという想定で、情報伝達、安否確認、避難、負傷者搬送、部局独自の訓練等が行われました。

当日は、14時12分に地震が発生したという想定で訓練がはじまり、直ちに平野総長から災害対策統括本部設置の指示が出されました。訓練開始の情報は、電話、FAX及び東山キャンパス内に設置した屋外防災無線装置（日本語・英語）で伝えられ、建物によっては館内放送も利用されました。訓練終了後は、豊田講堂において、飛田 潤災害対策室員による防災講演会などが行われ、多数の教職員、学生が参加しました。

今回の訓練では、「名大ポータル」の一部を使い、自分の安否情報を携帯電話から登録する安否確認訓練を行いま



豊田講堂で行われた防災講演の様子

した。これは情報連携統括本部と災害対策室が開発を進めたシステムで、一昨年からの試行を経て、全部局を対象に、システム側から登録を呼びかける「発信型」の安否登録訓練を行い、多数の安否情報が登録されました。

また、名古屋市消防局の協力のもと、普通救命講習Ⅰ（成人コース・3時間）の出張講習が、東山地区において実施されました。150人の定員に対して申込みが殺到し、定員オーバーで受講できなかった人も多数いたため、来年度以降も継続して実施する予定です。

今年度は、各部局独自の防災訓練も多数実施され、避難訓練、消火訓練、脱出袋による降下体験訓練などが行われ、参加者は真剣な面持ちで訓練に臨んでいました。さらに、災害対策室において作成した「地震時の対応ガイド」（4パターン）をもとに、各部屋のマニュアルを作成したり、地震防災についての啓発教育を行う部局もありました。

東海地域においては、東海地震・東南海地震などの巨大地震による大規模な地震被害の発生が危惧されています。今後も、大学組織としての対応能力向上のために定期的な防災訓練を続けていく予定です。



消火訓練



負傷者の搬送訓練

大学院留学生特別コース学位記授与式を挙行

平成20年度名古屋大学大学院留学生特別コース学位記授与式が、9月26日(金)、野依記念学術交流館2階カンファレンスホールにおいて、総長、理事、研究科長らの列席のもと挙行されました。

本学には、現在、大学院における外国人留学生のための英語による特別コースが、大学院法学研究科博士課程(前期・後期課程)綜合法政専攻、大学院医学系研究科修士課程医科学専攻、大学院工学研究科博士課程(後期課程)社会基盤工学専攻及び大学院環境学研究科博士課程(後期課程)地球環境科学専攻で開設されており、平成9年度から



修了生総代の辞



記念撮影

は、9月に学位記授与式を行っています。

授与式では、修了生のうち、大学院法学研究科の5名及び大学院医学系研究科の14名に修士の学位記が、大学院法学研究科の2名、大学院工学研究科の5名、そして大学院環境学研究科の2名に博士の学位記が、平野総長から一人ひとりに授与され、次いで、本学での課程を修了したことへの祝いの言葉と、本学で学んだ知識や技術をさらに研鑽し、母国のみならず、世界の発展のため力を発揮されることを希望する旨のはなむけの言葉が贈られました。

これを受けて、修了生を代表して大学院環境学研究科の陳兵さん(中国)が、日本での研究生生活、指導教員や学生との交流など留学中のエピソードを交えた謝辞を述べました。

閉会後には、総長をはじめとする列席者、陪席の指導教員、修了生の家族等を交えて記念撮影が行われるなど、厳粛な中にも和やかな雰囲気となりました。

安城市立祥南小学校において防災学習を実施

9月24日(水)、愛知県安城市立祥南小学校において、防災学習が実施されました。

これは、内閣府が支援する「防災教育チャレンジプラン」に採択された「土地の古老の三河地震被災体験談から学ぶ、地震・災害のしくみと防災のあり方」プランの一環として、災害対策室歴史災害教訓伝達プロジェクト(代表・林能成助教)が同市の防災課や教育委員会などと協力して進めているもので、7月19日の志貴小学校に続く本年度2校目の開催となりました。

今回の学習は5年生3クラスを対象に、同校の体育館を



被災体験談を熱心に聴く祥南小学校の5年生

会場として2時間にわたって行われました。1時間目は、地震災害の実態を学ぶため、木村玲欧災害対策室助教の司会により、1945年の三河地震で被災した鈴木敏枝さん・杵名美代さんの姉妹が、自らの被災体験とそのときの心理などをわかりやすく紹介しました。その後、2時間目には、体験談から学んだ「地震の前や後にどんなことをすればよいか」について、地域で活動する防災ボランティア「安城防災ネット」の指導のもと、ワークショップ形式の少人数体験学習で学びました。

災害に強い地域社会をつくるためには、子ども時代からの

防災教育や地域内連携の充実が重要です。今回の学習では、小学校・地域ボランティア・大学が連携した新しい教育カリキュラムの構築に向けた第一歩を踏み出すことができました。今後、アンケート結果などにもとづいてカリキュラムの改善や充実を図り、多方面に展開していく予定です。



地域のボランティアの皆さんの指導による体験型学習